令和４年度

事業所自己評価シート

公表日　令和５年３月24日

職員による自己評価

A環境・体制整備

・全体の活動場所は狭いが、クールダウンできるスペースを間仕切り等で作ってあるのは評価できる。

・曜日やその日のメンバーにもよるが、もう少しスタッフの人数がほしいと思う時はある。利用者２名に対して職員１名は常に確保したい。

・曜日によって利用者の人数に違いがあるので、スペース自体が適切かは判断が難しいところである。

・利用者の実態やその日の職員の人数によって、対応に違いが出ることは仕方がないと思う。

・利用人数が多い時には、活動スペースが狭く感じる。全体が見渡せるような環境が望ましい。

B業務改善

・スタッフ全員参加形式の研修が１回だけ行われたが、１回だけでは物足りない。希望を言えば、もう少し研修の機会がほしい。

C適切な支援の提供

・利用者の情報が古すぎる。成長とともに情報の更新が必要になってくる。

D関係機関や保護者との連携

・コロナ過で関係機関との連携が取り辛かった。

E保護者への説明責任等

・保護者からの相談を受ける機会が少なかった。

保護者による評価

A環境・体制整備

・人数が多い時には、ちょっと遊んだりする場所が狭いかなと思う。

B適切な支援の提供

・他方面との交流ができなかったのは、コロナ過のため仕方がないと思う。夏休み中のお出かけイベントは楽しめたと思う。

C保護者への説明等

・保護者会等の開催はコロナ過のためか行われておらず、保護者同士でお話しする機会がなかった。

D非常時の対応

・非常災害の発生に備えての定期的な訓練が行われているかは、情報が無いので把握していない。

E満足度

・子どもはとても楽しめていて、第２の家のように感じているようだ。

・通常の活動に加え季節の行事イベントなどが充実している。また、ハロウィンの衣装や誕生日カードなど、心のこもった手作りのもので子どもの心を豊かにしてくれる。宿題も横についてしっかり見てくれると聞いており、安心できる居場所になっている。

・子どもが近くの公園に行きたがり、利用日に休むか行かせるか迷うときがある。

・スタッフの皆さんがしっかりと子どもを見てくださるので、安心して預けられる。

事業所内での分析

【共通点】

・元々全体の活動スペースが限られているところに、その日の人数が多くなるとさらに狭さを感じる。

・コロナ過の状況が続き、保護者との面談が制限され他方面との交流もできていない。

【相違点】

・スタッフ間では利用者の情報共有やイベントの打ち合わせ等定期的に行っているが、それらを保護者に伝える機会が不足している。

分析・検討してみて…

事業所の強み

・多くの利用者が事業所内での活動をとても楽しみにしている。また、保護者からも豊富なイベントや制作等の細かい作業の出来栄えに満足しているという意見を多くいただいている。
・保護者間の口コミや学校の推薦などもあり、利用者の登録数を順調に伸ばせている。
・事業所の活動に魅力を感じてもらえていることで、途中で退所される利用者が極端に少ないと感じる。

事業所の改善点

・コロナ過により、ここ数年は面談等保護者との接点がかなり削減されてしまった。今後は情報発信を含め、活動内容のアピールにつなげる場を積極的に設けていきたいと思う。

事業所の改善への取り組み

・プログラム活動やイベントの内容などをさらに充実させていきたいと考えている。
・事業所の２大コンセプトである学習支援と自立支援に力を入れ、より発展的な療育につなげていきたい。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

・利用者の感想を聞いている保護者からは、とても満足しているという意見を数多くいただいている。それは今までやってきたことが間違いなかったと判断でき、今後も将来的な自立に向けた支援を第一に、利用者それぞれに適した療育プランを進めていきたいと考えている。

事業所名　プレップサポートセンター屏風ヶ浦
担当者　　丹生　浩彰